

ナンリン・スマイル😊

令和2年度5月号
南林間小学校
児童指導・支援部

交通事故に気をつけよう



この休業期間中、全国で小学生児童が交通事故にあう件数が増えています。全国規模で外出の自粛が要請されている中、児童たちは友だちと会う機会がなかなかないため、平日も日中から子どもたちだけで公園に行く姿が見られます。それが、車を運転するドライバーにとっては想定外となり、思わぬ場所で接触事故が起きてしまうケースが増えているそうです。

外で遊ぶ時も「自分のいのちは自分でまもる」

近々緊急事態宣言が解除にはなりそうですが、まだしばらくは自宅やその周辺ですごす時間はたくさんあります。安全のために保護者の方と一緒に出かけられることが望ましいですが、いつもそれが可能なわけではないと思います。

南林間小学校でも、災害時の避難訓練の際、「自分のいのちは自分でまもる」という言葉を児童に投げかけています。避難訓練は教師の主導で行っていますが、万が一、児童が教師の目の行き届かないところで災害にあったときは、自分で自分の命を守らなければならないということを意識させています。それと同じことが、この休業期間中の生活でもいえると思います。交通事故にあう前に、どうすれば「自分のいのちは自分でまもる」ことができるのかを、ご家庭で話し合う機会をもっていただけたらと思います。今回、交通事故に合わないために大切なことを以下に記しましたので、お子さんと話し合う際の参考になさってください。



自分のいのちは自分でまもる

～歩行・自転車通行編～

● 「とび出し」はしない

- 道路に出るときは、いつもまわりが安全かどうかを確認する。
- 車が来るかどうか見えづらいところは、「車が来るかも」と考えておく。

● 信号では、「ゆとり」をもとう

- 信号を待つときは、走っている車から十分に離れる。
- 青色でも、点滅（チカチカ）していたら横断歩道をわたらない。

● 運転手さんがどう見ているかを予想しよう

- 車だけでなく、「運転手さんが自分を見ているか」も見る。
- 信号のない横断歩道では、「止まる」「見る」「待つ」をこころがける。
- 歩道のない道路を何人かで歩くときは、一列で歩く。

参考：「JA 共済の地域貢献活動 HP」より